

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

SER no.109; Cover, contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008860

Senri Ethnological Reports

109

SE
R 109

国立民族学博物館

調査報告

109

Cultural Resources and Ethnic Groups in Southwest China

Edited by

Shigeyuki Tsukada

National Museum of Ethnology
2013 Osaka

ISSN 1340-6787
ISBN 978-4-906962-00-6 C3039

西南中国少数民族の文化資源の“いま”

塚田誠之 編



西南中国少数民族の 文化資源の“いま”

塚田誠之 編

国立民族学博物館 2013

国立民族学博物館 調査報告

109

西南中国少数民族の文化資源の“いま”

塚田誠之 編

国立民族学博物館

2013



西南中国少数民族の 文化資源のいま

国立民族学博物館開館30周年記念 国際シンポジウム

日時——2008年3月13日(木)
10:00～18:00

会場——国立民族学博物館
第4セミナー室

定員——50名(要申込)

使用言語——日本語、中国語(同時通訳)

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立民族学博物館



はじめに

塚田誠之

本書は、2008年3月13日、国立民族学博物館において開催された国立民族学博物館開館30周年記念国際シンポジウム「西南中国少数民族の文化資源の“いま”」において発表された研究報告および討論を収録したものである。西南中国の少数民族地域では、それぞれの民族が豊富な文化を有する。有形・無形の文化は、民族を特徴付ける資源として形成され応用されている。文化資源は絶えず変貌を遂げ戦略的に活用されてきた。本シンポジウムでは、中国西南部、広西・雲南から各博物館の館長など文物や文化の管理・保護・活用を研究・担当している研究者3名を招聘し、各省区の最新の具体的な事例にもとづいて、少数民族の文化資源がどのように形成され、現在どう活用されているのか、またどのような課題を抱えているのかについて比較し検討した。報告者のほか総合コメンテーター、各発表に対するコメンテーターを国内から招聘した。なお、李黔濱氏は都合により論文参加という形になった。

文化資源について、いくつかのポイントを挙げると、まずその形成の歴史に基づいた検討が必要である。たとえば伝統と看做されているものがある時代に創作されることがある。伝統は時間とともに変化する。国立民族学博物館特別展「深奥的中国——少数民族の暮らしと工芸」(2008年3月13日～6月3日)でチワン(壮)族の高床式住居や年中行事において漢文化を受容し自らの文化を形成してきたことを紹介した。外来文化を受容し、もとの文化とが融合して新たな文化を作り出してゆく事例は多く見られる。現状を正確に認識するためには文化形成の歴史をふまえた検討が必要だと思われる。この場合、現在における新たな伝統の創出という点も問題になる。

また、文化が資源として具体的にどのように活用されているかという問題がある。たとえば最近各地で生態博物館を建設する試みがなされているが、それはもともとあった農村を利用して、住民の参与のもとに、住民の民族文化を保護し伝承していく取り組みで注目を集めている。そのことを通じて、地元の少数民族の社会経済の発展をも促進し、当該の民族や地域の住民のアイデンティティを生み出したり、すでにあるアイデンティティを一層高めて行く点でも注目される。文化がどのように活用され、そのことで人々のアイデンティティにどのような影響を与えているのだろうかという点である。生態博物館のほか従来型の博物館や民族村を含む屋外での展示といった文化の展示の装置と方法もここで問題となる。

さらに、文化資源の活用は現在、さまざまな問題点に直面している。たとえば特別展示で、チワン族の高床式住居の2層部分を再現したが、広西で高床式住居は、観光地では景観の一部をなす文化資源として保存が積極的に議論されている。しかし、観光化さ

れていないところでは自然の成り行きにまかせ、結果として多くの地域で出稼ぎに行った若者がセメントブロックのビルに建て替える動きが見られる。急速な現代化、経済のグローバル化の進行に直面している現在、資源としての伝統的な文化が変化する場合が多く見られる。文化の資源としての保護と活用がどのような問題点に直面して、どのような取り組みがなされているかという点が問題になる。

本シンポジウムでは、西南中国の少数民族の文化資源の問題について、各省区を代表する研究者が最新の状況を報告し、それに基づいて日中の第一線で活躍している研究者により討論を行った。討論を通じて文化資源について理解を深めるとともに、研究上の新たな発見や大きな発展が得られた。

なお、本シンポジウムは、共同研究「民族文化資源の生成と変貌——華南地域を中心とした人類学・歴史学的研究」(代表武内房司)、および科学研究費補助金・基盤研究(B)「中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態」(課題番号19401046、代表者塚田誠之)と合同で開催した。

本書の内容の紹介

覃溥報告では、広西における生態博物館の建設の実践と直面する問題点が検討されている。まず、生態博物館の建設の目的として、それが少数民族の文化の保護や発展に必要であって、民族の経済発展、生態環境の保護にとっても重要であることをふまえたうえで、学際的な研究を行い、各級政府の共通の認識を得た上で建設されるべきであること、その運営において、現地の村民の意識を高めることや、文化の保護とその合理的な活用・管理の強化が必要であることが指摘されている。さらには、生態博物館と広西民族博物館とが連携して、ネットワークを構築し、研究のステーションとなるべきことが指摘されている。従来型の博物館と異なる、既存の村落を活用した生態博物館が各地で建設され、注目を集めているが、その建設に際しての具体的な取り組みの内容が詳細に検討されている点で注目される。

なお、シンポジウムの開催の時点から本論集の刊行までに、すでに4年余の時間が経過した。覃溥報告で、広西民族博物館を建設し、各地の民族の調査研究・文化遺物の収集の基地としての10の生態博物館との全方位的な資源共有のプラットフォームを構築し「連合体」とする壮大な構想が提示されている。広西民族博物館は2008年12月に竣工し、2009年4月に正式に对外开放された。また10カ所の生態博物館も今日までに全て建設されている。ただし、それらは建設されたばかりであるので、広西民族博物館と各地の生態博物館との間に構築されるであろう研究や資料収集のネットワークがどのように機能していくのかについては、今後長期的に注視していく必要があろう。

次いで、呉偉峰報告では、広西壮族自治区博物館の室内外展示の特色と発展について検討されている。広西壮族自治区博物館に隣接して、広西民族文物苑が建設されている

が、そこでの展示の内容が紹介され、その社会的な機能にふれ、あわせて室内展示の内容と特徴も紹介されている。広西民族文物苑では、トン族の風雨橋や鼓楼、チワン族やミャオ族の民家を復元して展示している。とともに、民族の歌や踊りの上演、エスニック料理を出すレストラン、土産物の販売など多角的な経営をしている。そこでは伝統的なものに加えて新たにつくられたもの（とくに民族の料理や歌・踊り、土産物）が調和し、観客が民族文化を五感で味わうことができるよう工夫されている。さらにそれらの実践を通じて社会に奉仕している現状、また文化資源の活用場として今後いっそう発展させるための構想が提示されている。なお、室内展示は、広西民族博物館の開館にともない銅鼓や民族民俗展示が移管され、もっぱら広西の歴史に特化したものになった。室外展示は、多角経営が成功を収め、市民の憩いの場として今も賑わっている。

李黔濱報告では、ミャオ族の民族衣装の重要な構成要素である銀製装身具について、その起源、形態分類、中原文化との関係、銀の機能、近年の変化など多方面から検討されている。銀製装身具が、文献史料の記載から明代に使用されはじめ清代に盛んになったこと、また中原地域で早期から流行していた魔除けの長命鎖を導入したこと、さらに未婚女性が民族的な活動へ参加したり嫁入り道具としての機能を持つこと、くわえて近年、銀よりも廉価な白銅（銅に銀メッキをほどこしたもの）が流行していること、銀細工職人の分散の現状などが指摘されている。銀自体に呪術的機能があることも指摘されている。銀製装身具の歴史と現状について、従来の見解に見直しをせまる研究として注目される。

謝沫華報告では、雲南の民族の多元性・多様性を論じたうえで、民族文化が現在直面する問題、とくに伝統的な文化資源の消滅・変化が顕著で、開発と文化の保護の矛盾が生じているなど問題点が検討されている。そして、この20年間の文化保護への取り組みの実例として、伝統的な形式の博物館の建設のほかに、民俗村、民族文化伝習館、民族文化生態村、民族文化活態博物館の建設などが紹介されている。さらに雲南における文化資源の保護のための取り組みについて、最新の具体的な情報が提示されている。

なお、中国側の4本の論文は当時の総合研究大学院大学院生の長沼さやか氏〈現・日本学術振興会特別研究員（PD）、国立民族学博物館共同研究員〉、岡晋氏〈現・国立民族学博物館外来研究員〉が邦訳を担当したが、邦訳の全責任は編者である塚田にあることを申し添えたい。

また、編集の都合上、第一セッションの司会を担当していた韓敏氏（国立民族学博物館）、第二セッションの司会を担当していた横山廣子氏（国立民族学博物館）の発言は割愛させていただいた。さらに、上記の民博共同研究の班員には、時間の関係上、コメントを一部の方のみをお願いせざるをえなかった。

目 次

はじめに	塚田誠之	1
〈第一セッション〉		
背負起现代社会发展中少数民族文化保护传承的时代责任与义务 —— 中国“广西民族生态博物馆建设 1 + 10 工程”实践 ——	覃 溥	9
現代社会の発展過程における少数民族文化保護・伝承を担う時代の責任と義務 —— 中国「広西民族生態博物館建設 1 + 10 プロジェクト」の実践 ——	訳：長沼さやか	23
コメント&リプライ		43
广西博物馆室外展示的特色和发展	吴 伟 峰	51
広西博物館の室外展示の特色と発展	訳：長沼さやか	59
コメント&リプライ		71
〈第二セッション〉		
文化多样性的保护 —— 云南的探索与实践 ——	谢 沫 华	79
文化多様性の保護 —— 雲南の探求と実践 ——	訳：長沼さやか	85
コメント&リプライ		93
苗族银饰的文化赏析	李 黔 滨	97
ミャオ族銀飾りの文化赏析	訳：岡 晋	103
コメント		111
〈第三セッション〉		
総合コメント・討論		117
シンポジウム「西南中国少数民族の文化資源の“いま”」日程		140
発表者・討論参加者一覧		142

〈第一セッション〉

〈第二セッション〉

〈第三セッション〉

シンポジウム「西南中国少数民族の文化資源の“いま”」日程

2008年3月13日(木) 10:00-18:00 国立民族学博物館第4セミナー室

(※所属は当時のもの)

第一セッション

座長：韓敏（国立民族学博物館）

10:00-10:30 ご挨拶、主旨説明、参加者紹介 塚田誠之（国立民族学博物館）

10:30-11:10 報告 覃溥（広西文物事業管理局）

「現代社会の発展過程における少数民族文化保護・伝承を担う
時代の責任と義務—中国「広西民族生態博物館建設1+10プロ
ジェクト」の実践—」

11:10-11:30 コメント 塚田誠之

11:30-12:10 報告 呉偉峰（広西博物館）

「広西博物館の室外展示の特色と発展」

12:10-12:30 コメント 兼重努（滋賀医科大学、民博共同研究員）

〈昼休み〉

第二セッション

座長：横山廣子（国立民族学博物館）

13:40-14:20 報告 謝沫華（雲南民族博物館）

「文化多様性の保護：雲南の探求と実践」

14:20-14:40 コメント 長谷千代子（総合地球環境学研究所、民博共同研究員）

14:40-15:20 報告 李黔濱（貴州省博物館）

「ミャオ族銀飾りの文化賞析」

15:20-15:40 コメント 曾士才（法政大学、民博共同研究員）

〈休憩〉

第三セッション

座長 塚田誠之

16:00-17:00 総合コメント

尹 紹 亭（雲南大学、東京外国語大学アジア・アフリカ言語
文化研究所外国人研究員）

周 星（愛知大学）

武内房司（学習院大学、民博共同研究員）

17:00-18:00 討論

発表者・討論参加者一覧

【国内】

兼 重	努 (かねしげ つとむ)	滋賀医科大学 准教授
韓	敏 (かん びん)	国立民族学博物館 教授
片 岡	樹 (かたおか たつき)	京都大学 准教授
周	星 (しゅう せい)	愛知大学 教授
曾	士 才 (そう しさい)	法政大学 教授
武 内 房 司	(たけうち ふさじ)	学習院大学 教授
谷 口 裕 久	(たにぐち やすひさ)	立命館大学 講師
塚 田 誠 之	(つかだ しげゆき)	国立民族学博物館 教授
長 谷 千代子	(ながたに ちよこ)	九州大学 講師 (当時、総合地球環境学研究所 所員)
長谷川	清 (はせがわ きよし)	文教大学 教授
松 岡 正 子	(まつおか まさこ)	愛知大学 教授
横 山 廣 子	(よこやま ひろこ)	国立民族学博物館 准教授

【国外】

覃	溥 (チン プー)	広西文化庁 副庁長 (当時、広西文物事業管理局 局長)
尹 紹 亭	(イン シャオテン)	雲南大学 教授 (当時、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 外国人研究員)
謝 沫 華	(シエ モーホワ)	雲南民族博物館 館長
呉 偉 峰	(ウー ウエイフォン)	広西壮族自治区博物館 館長
李 黔 濱	(リー チエンビン)	貴州省博物館 名誉館長・顧問

Senri Ethnological Reports (最新号)

当館のウェブサイトにてバックナンバーのPDFをダウンロードすることができます。

<http://ir.minpaku.ac.jp/dspace/handle/10502/49>

- No.108 土方久功日記Ⅳ (2012; 土方久功, 須藤健一・清水久夫編; 日本語)
- No.107 A Herder, a Trader, and a Lawyer: Three Twentieth-Century Mongolian Leaders (2012; Interviews conducted by Yuki Konagaya, I. Lkhagvasuren, translated by Mary Rossabi, edited and compiled by Morris Rossabi; 英語)
- No.106 情報化時代のローカル・コミュニティーICTを活用した地域ネットワークの構築 (2012; 杉本星子; 日本語)
- No.105 *Buddhist Fire Ritual in Japan* (2012; Madhavi Kolhatkar and Musashi Tachikawa; 英語)
- No.104 東アジアの民族イメージ前近代における認識と相互作用 (2012; 野林厚志; 日本語)
- No.103 マダガスカル地域文化の動態 (2012; 飯田卓編; 日本語)
- No.102 「障害のない社会」にむけて－ウエルビーイングへの問いとノーマライゼーションの実践 (2012; 鈴木七美編; 日本語)
- No.101 *Altai Uriankhains: Historical and Ethnographical Investigation Late XIX – Early XX centuries* (2012; Ichinkhorloo LKHAGVASUREN; 英語・モンゴル語)
- No.100 土方久功日記Ⅲ (2011; 土方久功, 須藤健一・清水久夫編; 日本語)
- No.99 *Research Notes on the Zhangzhung Language by Frederick W. Thomas at the British Library* (Bon Studies 14) (2011; eds. Tsuguhito Takeuchi, Burkhard Quessel and Yasuhiko Nagano; 英語)
- No.98 *A Great Tibetan-Mongolian Lexicon* [CD-ROM] (2011; eds. Urianhai L. Terbish, Urianhai T. Chuluun-Erdene; チベット語、モンゴル語)
- No.97 海洋環境保全の人類学 ― 沿岸水域利用と国際社会 (2011; 松本博之編; 日本語)
- No.96 *Socialist Devotees and Dissenters* (2011; Interviews conducted by Yuki Konagaya, I. Lkhagvasuren, translated by Mary Rossabi, edited and compiled by Morris Rossabi; 英語)
- No.95 *Bonpo Thangkas from Rebkong* (Bon studies 13) (2011; ボンギャ ゲレ フンドウツプ ギャムツォ・津曲真一・立川武蔵・長野泰彦編; 英語、チベット語)
- No.94 土方久功日記Ⅱ (2010; 土方久功, 須藤健一・清水久夫編; 日本語)
- No.93 *Une version rgyalrong de l'épopée de Gesar* (Gyarong Studies 1) (2010; Guillaume Jacques and Chen Zhen, ed. Yasuhiko Nagano; フランス語)

[国立民族学博物館刊行物審査委員会]

須藤健一 館長
西尾哲夫 副館長
杉本良男 副館長
韓 敏 民族社会研究部
八杉佳穂 民族文化研究部
寺田吉孝 先端人類科学研究部
岸上伸啓 研究戦略センター（研究出版委員長）
朝倉敏夫 文化資源研究センター

平成25年1月25日発行

国立民族学博物館調査報告 109

編 者 塚 田 誠 之

発 行 人間文化研究機構
国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL. 06(6876)2151(代表)

印 刷 株式会社 遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL. 06(6304)9325(代表)
